令和6年度品川区いじめ根絶協議会（第2回）

議事録要旨

1 日時

令和7年1月31日（金）午後1時から午後3時30分まで

2 会場

品川区立鈴ヶ森小学校

3 内容

- (1) 委員長挨拶
- (2) 品川区教育委員会教育長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 授業見学
第6学年いじめ予防授業の見学
- (5) ○報告
 - ア 品川区立学校におけるいじめの現状といじめ防止等に関する主な取組について
 - イ 鈴ヶ森小学校のいじめ根絶の取組について
 - いじめ予防授業（ワークショップ）の体験・意見交換
 - 意見の発表・まとめ
- (6) 品川区教育委員会教育次長挨拶

4 出席者

委員一覧のとおり

5 報告要旨

- (1) 品川区立学校におけるいじめの現状といじめ防止等に関する主な取組について
【教育総合支援センター指導主事】
 - ・区立学校におけるいじめの現状について説明
 - ・区におけるいじめ防止等に関する主な取組（いじめ予防授業）について説明
 - (2) 鈴ヶ森小学校のいじめ根絶の取組について
【鈴ヶ森小学校校長】
 - ・学校の組織的な取組（教員対象研修、鈴ヶ森中学校との連携等）について説明
 - ・市民科学習を中心とした取組（いじめ予防プログラム等）について説明
 - ・児童を中心とした取組（鈴小いじめ根絶宣言、鈴小いじめ防止標語等）について説明
- 6 いじめ予防授業（ワークショップ）の体験・グループ意見交換
「や・は・た行動」(※) 説明、「や・は・た行動」カードワークショップ体験と意見交換

7 グループ意見の発表・まとめについて

(1) 意見内容発表

・ワークショップのような取組を行いながら、子どもたちや教員の意識を変えていくことが重要。鈴ヶ森小学校が学校全体で行っている取組を広めていってほしい。

(第1グループ)

・「や・は・た行動」カードワークショップでは、正解を求めるのではなく、いろいろな考えや方法があるということ子どもたちに知らせていくこと、また、児童・生徒自身が考える機会を意図的に持たせることが重要だと感じた。先生としてできること、子どもとしてできること、先生と子どもと一緒にできることがある。そこに保護者、地域も含めて皆で関わっていくこと、子どもを育てていくことが重要なのではないか。

(第2グループ)

・「や・は・た行動」カードワークショップについて、初めはどのように使えばよいのか悩んだが、始めてみるととても分かりやすかったと感じた。カードをどのような基準で選択するのか、グループ内で議論しながら選ぶことができた。

・事前に用意されたカードだけではない「や・は・た行動」が、子どもたち自身からも出てくるのではないかと感じた。4枚の選択肢だけでなく、白いカードを用意して、そこに「子どもたち自身が考える行動」を書き込んでカードを置けるようにすると、さらに発展的に広がるのではないかと感じた。

(第3グループ)

・「や・は・た行動」カードワークショップを体験し、カードの中の当事者であるA・Bさんだけでなく、その周りにいる人たちがとても重要だと感じた。また、グループのメンバーが一人変わるだけでも違う選択になるため、コミュニケーションをとりながら取り組むことが大切である。

・いじめ予防授業については、児童・生徒同士が話し合いをする際に、具体的な方策のアシストがあるとよい。授業の内容は理解できると思うが、子どもたちの心に入っていくためには学年に応じた工夫が必要である。

(第4グループ)

(2) 質疑応答

(質問：委員)

解消に至っていないいじめや、長期化しているいじめに対して区はどのように対応しているのか。また、学校だけで対応することが難しい場合など、どのような仕組みを作っているのか。

(回答：教育総合支援センター)

長期化している事案については学校担当指導主事、HEARTS（品川学校支援チーム）の他、今年度からはスクールロイヤーも入っている。事案に応じて教育委員会と一緒に学校と対応を進めている。

(3) 意見

いじめDアンケートの申告数と学校のいじめ認知件数に乖離がある学校に対して、学校いじめ対策委員会の問題にするだけでは何も変わらないのではないかと感じた。いじめDアンケートの申告件数と学校のいじめ認知件数に差がない学校もあるということから、学校ごとの違いはどこにあるのか、教育委員会として検討し、指導助言していただきたい。

(4) まとめ (明石委員長)

いじめの授業は難しいということを大前提としてほしい。同じ教材を使っても先生により少し違いがでてくる。今日体験したようなワークショップのような形式を取り入れ、様々なシミュレーションを見童・生徒に体験させてほしい。先生が指導するいじめ授業の教材に加えて、子どもたち自身が体験するワークショップを取り入れることは良いと感じた。

子どもたちが成長する過程でつまずきがあったときに、どのようにサポートするか、ケアをするかという共通認識を先生方にはもってほしい。いじめだけでなく問題行動に対して品川区はどういう対応をしていくのかということを考えていってほしい。

※「や・は・た」行動

いじめが起きたとして、いじめを見て見ぬふりをしている周囲の「傍観者」が「やめて」と言ったり、被害者と一緒にその場を「はなれる」行動をとったり、周囲の大人に「たすけて」と助けを求めたりする行動

(注：公益社団法人子どもの発達科学研究所が提唱する行動の通称名)